

別添

# 中島地区津波避難計画

中島地区自主防災会連合会



## 1 対象とする想定（愛媛県被害想定 南海トラフ巨大地震による被害想定）

### (1) 松山市の被害想定

### (2) 中島地区の被害想定

## 2 津波避難

### (1) 総則

### (2) 避難計画

#### ① 早期避難

#### ② 緊急避難

#### ③ 避難の目安

### (3) 平常時の活動

#### ① 津波避難カルテの作成

#### ② 各戸での対応

#### ③ 心構え

### (4) 津波避難及び土砂災害避難シミュレーターの活用

## 3 情報伝達体制

## 4 防災訓練による検証

## 5 津波防災教育による持続可能な地域防災力の向上

## 6 関係資料

## 中島地区津波避難計画

### 1 対象とする想定（愛媛県被害想定）

#### 南海トラフ巨大地震による被害想定

##### (1) 松山市の被害想定

- ① 最大震度 7
- ② 最高津波水位 3.9 m（由良港）到達時間 199分  
※1mの最短津波到達時間 115分
- ③ 全壊棟数 35,759棟（津波 72棟）
- ④ 半壊棟数 25,974棟（津波 3,593棟）
- ⑤ 死者数 715人（津波 184人）
- ⑥ 負傷者数 5,707人（津波 78人）

##### (2) 中島地区の被害想定

【資料(1)】

- ① 震度 5強～6強
- ② 最高津波水位
  - ・中島港 3.1 m（到達時間 429分）  
※海面変動影響開始時間 8分
  - ・元怒和漁港 2.9 m（到達時間 188分）  
※海面変動影響開始時間 23分
- ③ 津波浸水想定区域 全島全地区が浸水想定区域 防災マップ参照

### (1) 総則

平成30年度に内閣府の津波避難に関する地区防災計画モデル地区に指定され、中島地区の津波避難に関する検討を進めた成果を「中島地区防災計画」に付随する「中島地区津波避難計画」としてまとめるものである。

この津波避難計画は、愛媛県の地震被害想定をもとに南海トラフ巨大地震での津波を対象とし、地震・津波から「自分たちの命は自分たちで守る」ための避難ルールや心構え、平常時の活動について定める。

津波からの避難については、気象庁が発表する南海トラフ地震に関する情報発表に伴う早期避難と、地震及び津波発生に伴う、瞬時の避難判断が必要となる緊急避難の2パターンを設定し、地区住民に避難ルールとして周知する。

### (2) 避難計画

#### ① 早期避難

気象庁が発表する南海トラフ地震に関連する情報で、南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まった場合の臨時情報の発表など、地震発生の危険性が高まっている場合には、安全性の高い場所などへの早期の避難により命を守る行動をとる。

早期避難については、避難勧告や避難指示を待たず、自主的に本計画で規定するルールを基に判断し、自主的に行動する。

#### 【気象庁が発表する南海トラフ地震に関連する情報（臨時）】

- 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- 観測された現象を調査した結果、南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合
- 南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではなくなったと評価された場合

## ② 緊急避難

地震の発生は予見が難しく、発生と同時に津波が発生し、沿岸部に到達する。津波からの避難にはより早く、より高い場所への避難が必要となるため、指定避難所が津波浸水想定区域内に位置する場合もあることから、指定避難所以外にも、安全な高台にある場所を各地区で選定（平成23年に選定）する。緊急時には次に明記する避難所に一時的な避難をとり、緊急の対応により命を守る行動をとる。また、津波は繰り返しやってくるので、津波警報の解除等、津波襲来のおそれなくなるまでは、安全な一時避難場所等で身を守る行動をとる。

### 【津波からの緊急時の一時避難場所】

### 【資料(2)】

- |        |                  |
|--------|------------------|
| ① 中島大浦 | 中島総合文化センター       |
| ② 小浜   | B & G海洋センター      |
| ③ 長師   | 中島中学校            |
| ④ 宮野   | 天満クラブロッケー場、竹の上城跡 |
| ⑤ 神浦   | 毘沙門天境内           |
| ⑥ 宇和間  | 宇和間天満神社          |
| ⑦ 熊田   | 土井農園道路           |
| ⑧ 吉木   | 五十鈴神社            |
| ⑨ 饒    | 饒地区ゲートボール場       |
| ⑩ 畑里   | 賀茂神社             |
| ⑪ 中島粟井 | 粟井老人クラブゲートボール場   |
| ⑫ 睦月   | 睦月農道             |
| ⑬ 野忽那  | 皿山               |
| ⑭ 津和地  | 島東側農道、洞源寺境内      |
| ⑮ 上怒和  | 上怒和農道            |
| ⑯ 元怒和  | 延福寺              |
| ⑰ 二神   | 小学校跡南西農道、宇佐八幡神社  |

但し、北海道胆振東部地震のように、地震の発生に伴う土砂災害の発生も考慮されることから、上記の一時避難場所でも、土砂災害の危険区域内である場合や、土砂災害の前兆現象（事例参照）が見られる場合は、一時避難場所にとらわれないことなく、より安全な場所へ避難することで、命を守る行動をとることを心掛ける。

## ※土砂災害の前兆現象（サイン）

- ・ 山鳴りがする（木立の裂ける音や巨礫の流れる音など）
- ・ がけから小石がパラパラと落ちてくる
- ・ 斜面に亀裂やはらみが見られる
- ・ 斜面から異様な音、地鳴りが聞こえる
- ・ がけから水が湧き出している（がけから流れる水が濁る）
- ・ 地割れができる（農地や道路に亀裂が生じる）
- ・ 斜面から水が噴き出す（樹木が傾いたり倒れたりしている）

### ③ 避難の目安

地震発生より、1mの最短津波到達時間が約2時間であると想定されているため、地震発生後は早期に避難行動を開始する。普段から一時避難場所までの所要時間を確認しておき、津波到達時間までには余裕をもって避難が完了できるよう訓練を重ねて検証しておく。また、要配慮者等の避難に時間を要する方や、自力での避難が困難な方がいる場合には、そうした方の避難に要する時間も予め考慮に入れ、早期の避難に努める。

### (3) 平常時の活動

#### ① 津波避難カルテの作成

【資料(3)】

自宅から一時避難場所までのルート及び避難方法、避難に要する時間の確認や、災害時に支援が可能な資格などの情報を記載した、避難カルテを全戸で作成し、地区代表者が保管する。これを、いざという時の救出・救護や要支援者支援などに生かすことで、地域ぐるみで地域の人々を守るために活用する。また、必要に応じて情報の更新のため再作成する。

## ② 各戸での対応

普段から気象情報に十分注意しておくとともに、防災マップで津波浸水想定区域や土砂災害の危険箇所を確認するなど、身近なところから情報をとれるよう心掛ける。

また、住宅の耐震化及び家具の転倒防止器具の設置などにより、地震発生後に家屋の倒壊や家具の転倒を防ぎ、避難行動に移ることが困難な状況を排除することで、早期の避難が可能な体制をつくることを常に心がける。さらに、危険を感じる場合には早期の避難を心掛け、身の安全の確保を図るものとするが、避難所へ避難をしない場合でも、土砂災害等に備え、各戸において2階や、がけ側（山側）ではない部屋での就寝を心掛けるなど、住宅内でも自らの身を守る行動をとる。

## ③ 心構え

避難することを難しいことと考えず、自分の命や家族の命を守る行動であることを地区住民みんなが認識し、率先的に避難行動をとることとし、避難後にたとえ災害が発生しなくても、災害が起きなくてよかったと笑顔で避難所を後にすることができる意識を持つように心掛ける。

## (4) 津波避難及び土砂災害避難シミュレーターの活用

【資料(4)】

愛媛大学防災情報研究センターが開発した「津波避難シミュレーター」及び「土砂災害避難シミュレーター」を活用し、地区内居住者の指定避難所や地域が独自に設定した緊急の一時避難場所への避難をシミュレーションして、避難経路や避難速度、避難時間や要支援者支援等について考察する。

また、こうしたツールの活用について、愛媛大学防災情報研究センターや大学生の「防災リーダークラブ」と連携し、住民への周知と避難行動の可視化を図り、避難計画の検証や修正について協力して実施する。

津波避難シミュレーターについては、全島全地区のシミュレーションを作成、地区代表者に配布し活用する。



### 3 情報伝達体制

災害時の情報伝達体制については、各種の情報伝達手段を活用し、地区内相互の情報共有を図る。

また、屋外放送等の既存の情報伝達手段による周知を主とするが、大雨時などは困難であり、また、地震時には携帯電話での連絡が困難となる可能性があるため、メール等を活用するなど、各種手段での情報伝達を図る。

### 4 防災訓練による検証

毎年実施する地区の防災訓練で、本計画を検証し、必要に応じて計画の修正等を加える。

また、防災訓練では地域居住者をはじめ、小学校、中学校、保育園、福祉施設警察、消防団など地域ぐるみで参加して実施し、あらゆる世代や組織で防災意識の啓発を図り、大学生の「防災リーダークラブ」の支援も得ながら、若い世代の参加も進め、訓練の実効性を高め活性化を図る。

防災訓練において、津波避難シミュレーターを活用するなど、普段から地震や津波への関心を持ってもらい、早期の情報収集により、自らの命を守る行動（自主避難等）につなげられる環境を整備する。

#### 防災訓練の様子



## 5 津波防災教育による持続可能な地域防災力の向上

高齢化が顕著に進む地区内において、地域防災の担い手となる若い力（中学生）は、貴重な宝であり、そうした中学生が継続的に防災教育を受けることは大変重要なことである。

地震や津波の発生のメカニズムを知り、自分たちが住む地域の危険箇所や津波の影響が及ぶ範囲を知ること、自らや家族の命を守る行動がとれる人間を育てることとなり、地震や津波からの被害者を軽減するだけでなく、地域内で助け合う「共助」の力も強化するものである。

平成30年度に、内閣府や愛媛大学の教授・学生などの協力により中島中学校で実施した「津波防災講座」では、受講した中学生に地域を支える立場としての意識が芽生えるなど、地域防災の担い手の育成につながった。

こうしたことから、今後も継続した防災教育を実施し、持続可能な地域防災力の向上に努める。

### 津波防災教育の様子



## 6 関係資料

- (1) 中島地区津波浸水ハザードマップ
- (2) 中島地区一時避難場所マップ
- (3) 津波避難カルテ（様式）
- (4) 津波避難シミュレーター（DVDにより全島全地区に配布）

中島地区

平成31年3月31日 策定